

令和7年度

運営に関する計画

最終評価

大阪市立加島小学校

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」と「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合は、全国平均をやや下回った。また、「大阪市教育振興基本計画改定に係る児童生徒アンケート」では、「あなたは、どのような学校に行きたいと思いますか」に対して「みんながながながよい」「いじめがない」と回答した児童の割合が高かった。
- 令和6年度の本市調査において、「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、「3時間以上」と回答する児童の割合30%で、大阪市平均を大きく上回った。
- 不登校については、教職員が様々な児童の実態に対応しながら、保護者と丁寧に連携し、安心して登校できる環境づくりを行い、一定の成果が見られた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和6年度「小学校学力経年調査」における国語および算数の平均正答率の対市比は、同一母集団において令和5年度と比較し、4～6年生のいずれの学年も、前年度より1ポイント向上させるという目標に到達しなかった。だが、ポイントが向上した学年もあり、きめ細やかな指導の成果が見られた。
- 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の「学力に課題の見られる児童の割合」は、国語科が35.4%（本市平均27.2%）、算数科が28.8%（本市平均21.8%）であった。どちらも令和5年度の結果よりも大きな改善が見られたが、市平均とはまだ差がある。
- 令和6年度「小学校学力経年調査」の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に、最も肯定的な「好き」と回答する児童（3～6年生）の割合は70%で、目標の80%以上に到達できなかった。だが、様々な運動に親しむ週間や、体育の授業、休み時間の鉄棒等の外遊びに、意欲的に参加する児童が多く、令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、男女ともに全国平均値を2年連続上回った。

【学びを支える教育環境の充実】

- 全市共通目標の「学習者用端末を活用した学習を週3回以上（60%以上）実施する」については、12月の月間使用率が平均76.6%となり、年度目標を達成した。
- 教職員の時間外勤務時間については、令和5年度と比較し、各月約計125分減少させることができた。
- 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の「学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」に「1日10分以上（1週間で70分）～1日2時間以上」と回答した児童の割合は49%（市平均57.6%）、「全く読まない」と回答した児童（3～6年生）の割合は31.4%（市平均24.1%）となり、「週に1時間以上の読書習慣の定着をめざす」について課題がみられた。

Ⅰ 学校運営の中期目標

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度「小学校学力経年調査」の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、82%以上にする。
- 令和7年度の本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか」に対して、「3時間以上」と回答する児童の割合を25%以下とする。
- 令和7年度「小学校学力経年調査」の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を73%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度「小学校学力経年調査」における「学力に課題の見られる児童の割合」を、同一母集団で経年的に比較し、いずれの学年も、国語科・算数科ともに1ポイント減少させる。
- 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」において、体力合計点对全国の平均値を上回る割合（1.00）以上を継続する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。
- 第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上とする。

【基準2】

- ① 1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない
 - ② 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間で6月まで
 - ③ 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない
 - ④ 連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月あたりの平均が80時間を超えない
- 令和7年度「小学校学力経年調査」の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度「小学校学力経年調査」の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、82%以上にする。
- 令和7年度の本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSMS、動画視聴、ゲーム等をしていますか」に対して、「3時間以上」と回答する児童の割合を25%以下とする。
- 令和7年度「小学校学力経年調査」の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を73%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度「小学校学力経年調査」における「学力に課題の見られる児童の割合」を、同一母集団で経年的に比較し、いずれの学年も、国語科・算数科ともに1ポイント減少させる。
- 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」において、体力合計点对全国の平均値を上回る割合（1.00）以上を継続する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。
- 第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上とする。

【基準2】

- ① 1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない
 - ② 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間で6月まで
 - ③ 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない
 - ④ 連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月あたりの平均が80時間を超えない
- 令和7年度「小学校学力経年調査」の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は、中期目標の最終年であるため、中期目標と年間の取り組みをまとめて総括する。

今年度は、すべての取り組みを計画通りに実施し、多くは指針を達成した。【安全・安心な教育の推進】がB、【未来を切り拓く学力・体力の向上】がC、【学びを支える教育環境の充実】がBとなったため、総合的な評価はBとした。

【安全・安心な教育の推進】においては、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」への肯定的回答が目標数値を超え、学校に来づらい子どもたちの状況も65%が改善した。一方で、「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか」の数値は、3時間を超える子どもたちの割合が昨年度よりも増加し、大阪市平均を大幅に上回った。別の項目では、子どもたちの日々の学びを支える家庭学習の小ささも明らかになっており、本校の子どもたちの学力に強く影響していると考えられる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】においては、各学年の子どもたちの傾向や特徴が顕著に表れ、指針に対する結果も学年間での違いがはっきり見られた。取組内容②の漢字検定はA評価ながら、総合評価をCとしたのは、漢字検定の取組が大阪市学力経年調査の結果に反映するものではなかったという意味である。本校の子どもたちが、学びに主体性を持って力を伸ばしていくためには、漢字に限定した取り組みよりも、日々の授業づくりや個に応じた支援が重要であるという認識に至った。

【学びを支える教育環境の充実】においては、学習者端末を活用した日数と、「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合が、目標数値を達成した。学習者用端末は「心の天気」だけでなく、デジタルドリル、文章や学習内容のまとめ作成など、授業での活用が進んだ。「読書は好きですか」への肯定的な回答は数値目標を達成できなかったものの、昨年度よりも増加し、取り組みの成果を示すことができた。いずれも、本校教職員の積極的な働きかけの成果であると考えられる。

次年度の「運営に関する計画」の指針は、今年度の結果をベースにしながら、次期大阪市振興計画のもと定めていく。既に、教員の時間外勤務の削減が示されており、令和8年度～11年度の間に達成していかななくてはならない。子どもたちの学びや豊かな経験の保障を損なうことなく、校務のスリム化と授業時数の削減、教員の授業コマ数の調整を進めていく必要がある。「運営に関する計画」の指針が、本校の子どもたちや教職員の実態と乖離した内容にならないように、議論を重ね、日々の取り組みが直接的に評価に反映できるように設計していく。

大阪市立加島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標(全市共通目標を含む)	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>「基本的な方向1 安全安心な教育環境の実現」より</p> <p>○令和7年度「小学校学力経年調査」の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、82%以上にする。→82.8%</p> <p>○令和7年度の本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか」に対して、「3時間以上」と回答する児童の割合を25%以下とする。→44.5%</p> <p>○令和7年度「小学校学力経年調査」の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を73%以上(令和6年度72.7%)にする。→82.2%</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。→65%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【2 豊かな心の育成】</p> <p>●一人ひとりの違いを認め合う集団を作る。 (多文化共生教育の推進)(いじめへの対応)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・障がい、国際、性自認などを取り扱った授業を各学年で年間1回以上実施する。 ・いじめアンケートにおいて「いじめたことがある」「いじめられたことがある」と回答した児童について、その後100%の解消を目指して継続指導を行う。</p>	B
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <p>●児童の良いところや達成できたところを見つけて認められる、自己有用感を高める。 (人権を尊重する教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・アセス調査にかかわる研修会を年1回以上開催し、調査結果を有効活用する。 ・児童理解研修会を年2回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>●児童の発達段階に応じた健康に関する指導を推進し、日常より基本的な生活習慣について徹底するように取り組む。 (健康に関する現代的課題への対応)</p>	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活チェックカードを年間3回することで基本的生活習慣の定着をはかり、保護者アンケートの「ゲームやスマートフォンを使う時間について」の項目で、「使う時間が決まっている」と肯定的な回答する保護者の割合を昨年度より上昇させる。 毎月20日はノーメディアデーを設定する。 学校保健委員会において、児童の早寝早起きの意識を高める。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①特別支援学級の教員を中心とした障がい理解教育、外国語の授業や世界の遊びを体験できる活動を通して、様々な国の習慣、文化等を含めた国際理解教育など、それぞれの学年で障がい、国際などを取り扱った授業を計画通り実施することができた。</p> <p>いじめアンケートを学期に1回行い、「いじめたことがある」「いじめられたことがある」と回答した児童について、その後個別に話を聞き不安を解消するために教員全体で共有し、継続した指導を行うことができた。</p> <p>②アセス調査にかかわる研修会を年1回以上、児童理解研修会を年2回以上実施し、子どもたちのよいところや頑張り、不安を全体で共通理解し、指導や見守りにつなげることができた。</p> <p>③ 保護者アンケートの結果は昨年度の58%から今年度は60%と上昇した。目標としていた昨年度比の向上を達成することができ、生活習慣の見直しを促す取り組みの成果が見られた。特に、生活チェックカードは自己の振り返りの機会として有効であった。一方で、メディア使用時間の管理については、肯定的な回答が60%と未だとどまっているので、家庭との連携をさらに強化する必要がある。ノーメディアデーに関しては、手紙を配布することにより、効果が高まる取り組みではあるが、児童の実施状況によって個人差が生まれたり、宿題での取り組みを失念するケースがみられたりするので、取り組みの改善が必要である。学校保健委員会は睡眠をテーマとした取り組みを3月に実施予定であり、児童の早寝早起きへの意識向上を図る取り組みを進めている。</p>	
<p>来年度に向けての改善点</p>	
<p>①引き続き、障がい、国際、性自認などを取り扱った授業を各学年で年間1回以上実施するために計画的に進めていく。</p> <p>②アセス調査にかかわる研修を行い、各学年や学級での指導に活かすことができているとの声もあるが、調査結果を有効活用できていない部分もある。引き続き有効活用できる手立ての共通理解を図り、今後に活かしていきたい。</p> <p>③ 生活チェックカードは継続しながらも、ノーメディアデーと生活チェックカードの統合や児童のやらされている感を減らすために数値だけでなく、「昨日は早く寝たらスッキリした」などの気づきを書かせるなど、児童の負担軽減や実効性の向上を図る工夫が必要である。また、メディア機器の使用時間の増加やトラブル発生を防ぐために、引き続き家庭への啓発と発達段階に応じた情報モラル教育の充実が重要である。</p>	

大阪市立加島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標（全市共通目標を含む）	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○令和7年度「小学校学力経年調査」における「学力に課題の見られる児童の割合」を、同一母集団で経年的に比較し、いずれの学年も、国語科・算数科ともに1ポイント減少させる。</p> <p>→国語 4年生 2.0 増 5年生 10.1 減 6年生 1.6 減 算数 4年生 8.4 増 5年生 12.8 増 6年生 17.8 減</p> <p>○令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」において、体力合計点对全国の平均値を上回る割合（1.00）以上を継続する。</p> <p>→男子 52.72（全国 53.02） 女子 54.64（全国 53.97）</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>●学力向上に向けて授業力向上に取り組む。 (「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関わる研修会を年間5回以上実施する。 ・学力向上支援チーム事業を通して一人一回授業を公開する。 ・学習指導や学級経営に関する書籍を共有して活用する場を作る。 	B
<p>取組内容⑤【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>●子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上に取り組む。 (言語教育・理数教育の充実)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年を対象としたアンケートで「漢字の練習に取り組むことで、漢字に自信が持てるようになった」という質問に肯定的回答する児童の割合を80%以上にする。→91% ・さみどりタイムで「自分の課題に対して成果を感じることができた」と回答する児童の割合を70%以上とする。→86% 	A
<p>取組内容⑥【5 健やかな体の育成】</p> <p>●児童の体力・運動能力の向上に向けて、運動・スポーツに楽しく参加できる学校行事、各種取組を実施し、運動やスポーツに親しむ機会を増やす。 (子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会以外に体育的行事を年間1回以上実施する。 	B

<ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートの「運動をすることが好きである」の項目の児童の肯定的回答率を80%以上にする。→82.1% ・体の動きを高める運動を体育の授業等で取り入れ、立ち幅跳びの平均記録を全国平均以上になることを目指す。 →男子 163.75cm (全国 150.93cm) 女子 151.51cm (全国 142.34cm) 	
<p>取り組み内容⑦【5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食に関する正しい知識と望ましい食習慣を児童の発達段階に応じて身につけるように取り組む。 <p style="text-align: right;">(食に関する指導の充実)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育に関する授業を各学級年間2回以上行い、望ましい食生活の意識を高める。 ・各学級において、給食日より発行の際に内容の紹介を行う。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>④授業に関わる研修会を年間5回以上実施し、それぞれの授業で生かすことができた。一人一回授業を実施することで、その単元についての指導案作成に深く取り組めた。さらに授業を公開することで助言をいただいたり、授業力を高めたりすることができた。また、学習指導や学級経営に関する書籍を共有して活用する場があり、いつでも読んだり、調べたりすることができた。</p> <p>⑤ふだんの漢字学習及び漢字検定に向けた漢字練習と自己の課題解決に向けたさみどりタイムを通して子ども一人ひとりが目標を持って取り組み、学力向上につながった。アンケート結果も漢字に関するアンケート91%で指標より11%上回り、さみどりタイムに関するアンケート86%で指標より16%上回り達成した。</p> <p>⑥今年度は、児童の体力・運動能力の向上を目標に、体育授業や学校行事を通して、なわとびや持久走、体の動きを高める運動を継続的に取り入れてきた。その結果、体を動かすことに対する児童の意識が高まり、運動に前向きに取り組む姿が多く見られるようになった。また、目標カードの作成や記録の見える化を行ったことで、児童一人一人が自分の課題を意識しながら取り組むことができ、意欲的に運動に参加する児童が増加した。校内アンケートにおいても、「運動が好き」と肯定的に回答する児童の割合が高まり、運動に対する肯定的な意識の向上が見られた。5年生の立ち幅跳びの平均記録も男女ともに全国平均を上回った。一方で、運動への意欲や体力の伸びには個人差があり、運動が苦手な児童や継続して取り組むことが難しい児童への支援の在り方については、今後も工夫が必要であると考えられる。</p> <p>⑦食育に関する授業は各学級、年間2回以上行い、発達段階に応じて指導することができた。普段の給食指導からも望ましい食生活の意識を高めることができた。給食だよりの内容の紹介は、できたときと、できないときがあり、学級や、配布時の状況による違いがあった。</p>	

来年度に向けての改善点

⑥次年度も今年度と同様に、体育的行事や体育授業の中で、なわとびや持久走など基礎的な運動を計画的に取り入れ、児童が継続して体を動かす機会を確保していきたい。また、運動が得意な児童だけでなく、運動に苦手意識をもつ児童も達成感を味わえるよう、目標設定の工夫や段階的な課題の設定を行い、一人一人の実態に応じた支援を充実させていく必要がある。さらに、家庭とも連携し、日常的に体を動かす習慣づくりにつながるような声かけや取組を進めていきたい。これらの取組を通して、児童が運動に親しみ、健やかな心身を育ていけるよう、継続的な指導の充実を図っていく。

⑦今後も、継続的に指導し、児童の発達段階に応じて身につけるようにしていきたい。たより配布時の指導方法を考えていきたい。保護者への啓発も行っていく。

(様式2)

大阪市立加島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標(全市共通目標を含む)	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。→88%</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上とする。→97.2%</p> <p>【基準2】</p> <p>① 1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない</p> <p>② 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間で6月まで</p> <p>③ 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない</p> <p>④ 連続する複数月(2か月、3か月、4か月、5か月、6か月)のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月あたりの平均が80時間を超えない</p> <p>○令和7年度「小学校学力経年調査」の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。→62.8%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑧【6 教育DXの推進】</p> <p>●一人一台端末を効果的に授業で活用する。</p> <p>(ICTを活用した教育の推進)</p> <p>指標</p> <p>・教員全員が、校内外で開催されるICTを活用した授業実践にかかる研修会、実践発表会に年間1回以上受講する。</p> <p>・日々の「心の天気」の入力を、学習者端末により出席者の80%以上行う。</p> <p>・学習者用端末を活用した授業、教材研究をICT支援員に相談、活用して実施する。</p>	B
<p>取組内容⑨【8 生涯学習の支援】</p> <p>●読書環境の充実を図り、読書習慣の定着を図る。</p> <p>●読書タイム、読み聞かせ活動の充実を図る。</p> <p>(学校図書館の活性化)</p> <p>指標</p> <p>・図書室や教室の読書環境を年間2回(夏季・冬季休業期間)見直す機会を設ける。</p> <p>・毎週月曜日と木曜日の朝の時間に読書タイムを実施し、読書の習慣を定着させる。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

⑧夏季休業中やメンター研修で ICT 研修を実施し、ICT 支援員の活用も進めることができた。児童は日常的に「心の天気」の入力に取り組み、朝の会やスクールライフノートの活用により入力習慣の定着が見られたが、入力しない児童が固定化しており、目標の 80%達成に至らない日もあった。学習者用端末は主に国語科・社会科を中心に活用し、図工・体育などでも活用を広げることができた。タイピング技能の向上も見られる。一方で、ICT 支援員への授業・教材研究の相談や、ICT 研修への全員参加には課題が残った。

⑨図書室のおすすめコーナーや新刊図書のコーナーを定期的に変化したり、学級文庫を入れ変えたりして、児童が普段手に取ることのない本との出会いにつなげるように努めた。また、夏季休業中に蔵書点検を行い、冬季休業中に除籍本の登録を行うことで読書環境を見直す機会を設けた。読書タイムやお話の会の実施により、本に親しむ時間を設け、読書の習慣を定着させるように努めた。図書委員会によるおすすめの本の紹介ポスターや放送での読み聞かせ、読書冊数チェックなどを行い児童の本に対する関心・意欲の向上にも努めた。しかし、年間目標である令和7年度「小学校学力経年調査」の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 62.8%と目標を下回る結果となった。

来年度に向けての改善点

⑧教員全員を対象とした ICT 研修の実施と研修情報の周知を進めるとともに、ICT 支援員との連携を一層強化し、授業での効果的な活用を図っていく。「心の天気」入力については未入力児童が固定化しており、遅刻や端末忘れへの対応も含め、継続的な声掛けと支援を行う。また、ICT 活用がすべての学習場面で有効とは限らず、依存傾向が見られる児童もいることから、活用の目的や指標の妥当性についても検討していく。

⑨来年度に向けては、「読書の良さ」を子どもたちに伝える啓発活動を充実させる必要がある。委員会からの働きかけやポスター掲示などを通して、読書の意義を発信していきたい。また、意欲的に読書をするために目標設定の在り方を見直したり、お気に入りの本を紹介し合ったりするなど本に興味を持てる活動を工夫することが重要である。あわせて、文字を読むことへの関心を高める取り組みや保護者への啓発、読み聞かせの充実も図っていききたい。さらに、現在の学校の実態を踏まえると、読書タイムの実施方法について見直しが必要であり、無理のない形で継続できる体制を検討する必要がある。最後に教員自身が読書に親しむ姿を示すことで、児童の読書習慣の定着につなげていきたい。